

長谷小学校の思い出といえば、六十年前の事になります。私達が二年の時は、古い役場の藁ぶきの家でした。雨降りの時は、部屋が暗かったものです。

三年生の時、校舎建築で、松巖寺裏の仮校舎に移りました。今の道は通らず、下の井手道を机、椅子を運びました。行き会えば、やぶや土手に身を寄せて通りました。教壇、机は砂の上です。小石もありました。下駄をはいて行く頃でしたので、よく下駄をかがしたり割ったりしてこわし方がひどかったものでした。家に帰って床下の奥の方に投げ込みました。一年に一回大掃除は父が床下をしますのでさんざん割れ下駄があると言われて叱られたものです。

休み時間は、河原で先生と一緒にチイチーパーパをして遊びました。新しい学校が出来立派でした。でも、今のような教室ではなく三教室を一つにして、机、椅子は廊下に出したものです。

高学年になった時、満州事変が勃発。其の頃より長谷小学校が勤労学校に指定され、金曜日は勤労日になって前の日には、竹ごしらえをしたり藁を打ったりして電灯をともして我先にと学校へ着くと校庭に藁を広げて作業をしました。男子は竹でかごやホーキを作り、女子は、なわ、草履まぶし等作り面白い勤労日でした。校庭の裏では、小鳥、にわとり、あひる、うさぎなど泣いてにぎやかでした。

夏休みの時、当番になり同級生二人で行きましたら、日直の先生と小使いさんが居ました。山の伊東さん方でスイカを買って来て早く食べるように言われた時、ちよつととまどいましたが一緒に食べました。珍しいのと美味しいのが今も忘れられません。

何十年も昔のことは想い出すと、面白いことばかりです。皆さんも同じとおもいます。長谷小学校のますますの御発展を祈りながらペンをおきます。

▼昭和3年から40年間続いた校舎

